

教育委員会の事務の管理及び執行状況の
点検・評価報告書
(令和6年度分)

令和7年11月

豊前市教育委員会

豊前市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価

- 豊前市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき実施するものです。

（参 考）

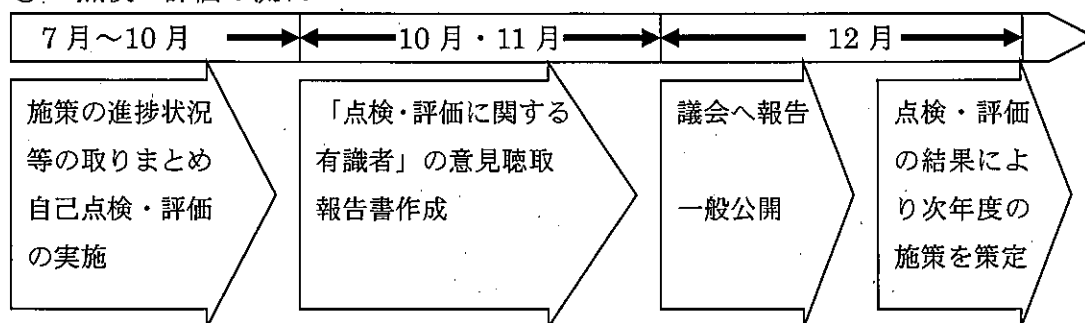
地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関係条文抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 点検・評価は、前年度の豊前市教育委員会の活動及びその権限に属する事務事業を対象とします。
- 上記に関連する事業は、次のページのとおりです。
- 点検・評価は、事業それぞれについて所管係が点検・評価シートを作成し、目的、内容、達成状況、事業の課題について検討した結果を総合的に判断し、A（期待以上）、B（期待どおり）、C（やや下回る）、D（期待以下）にわけて自己評価を行いました。
- 点検・評価については、教育に関し学識経験を有する第三者に外部評価をしていただきました。
- 点検・評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を豊前市議会（文教厚生委員会）に報告するとともに一般に公開します。
- 点検・評価の結果により、評価の高い事業は引き続き実施し、評価の低い事業は課題の解決や、見直しを検討していきます。

○ 点検・評価の流れ



I 教育委員会の活動状況について

..... 1

II 教育施策の執行状況について

点検・評価事務事業一覧

大区分	小区分	事務事業	ページ
就学前教育	1 楽しく充実した幼児教育	1 小・中・高校、幼稚園及び保育園との連携	2
学校教育	2 楽しく充実した学校	1 小規模校の教育活動の充実	3
		2 学校施設の機能更新	4
		3 特別支援教育総合推進事業の取組	5
		4 学力向上に向けた取組	6
		5 放課後支援事業(ぶぜん学び道場 寺子屋)	7
		6 心の問題への対応	8
		7 教育環境の充実	9
		8 効率化・安全性を考慮した学校給食	10
		9 学校再編成	11
社会教育	3 社会教育推進体制	1 社会教育主事の活用	12
	4 青少年教育	1 体験学習の推進	13
		2 地域との連携	14
		3 各種団体への支援	15
	5 社会人への支援	1 学習機会の提供	16
	6 公民館運営	1 施設機能の整備	17
スポーツ振興	7 地域スポーツの振興	1 総合型地域スポーツクラブ事業	18
	8 スポーツ活性化	1 青少年のスポーツの振興	19
		2 障がい者のスポーツの振興	20
		3 第30回世界少年野球大会福岡大会	21
	9 施設の整備	1 スポーツ施設の整備	22
生涯学習	10 生涯学習推進体制	1 豊前市生涯学習推進基本計画	23
	11 生涯学習情報提供	1 生涯学習プログラムの構築	24
	12 生涯学習の実践	1 市職員による出前講座の実践	25
		2 書道ボランティアの活用	26
文化財の保護と活用	13 文化財の整備と活用	1 国史跡「求菩提山」の整備	27
	14 文化財の公開	1 展示施設の整備と教育普及活動	28
		2 各種情報の発信	29
	15 無形民俗文化財の伝承	1 保存と伝承活動の支援	30
	16 歴史遺産の活用	1 ガイドボランティアの支援	31
芸術文化の振興	17 芸術活動	1 文化事業の実施、場の提供	32
	18 読書活動	1 豊前市立図書館の充実	33
		2 学校図書館との連携	34

I 教育委員会の活動状況について

教育委員会の概要

1 教育委員会について

教育委員会は、「教育に関する事務」を処理するために、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第2条に基づき設置される市長から独立した組織です。市長が議会の同意を得て任命した教育長及び4人の教育委員で組織され、教育行政における重要事項や基本方針を決定します。

2 教育委員会の所管事務

教育委員会は学校教育、社会教育、スポーツ、文化芸術等に関する事務を行っています。

教育委員会の活動状況

【点検・評価シート 教育委員会の活動状況】

令和6年度 実施状況	○教育委員会会議の実施 ・定例会：11回 臨時会：1回 ・議決事項：26件（規則等の制定・改廃、教育関係予算・決算、人事案件、教科書採択、文化財指定、指定管理者の解除・指定ほか） ・報告・協議事項：44件 ○総合教育会議の実施 ・R6.7.2 豊前市いじめ問題調査委員会条例等について 学校再編成について ○学校訪問 ・八屋小学校・大村小学校・三毛門小学校・合岩中学校 ○その他 ・学校行事・式典への出席、研修会等への参加			
成果・課題	成果 ○定例会について、概ね月1回開催し、教育施策に関する事項について協議・議論を行うことができた。 ○総合教育会議では、教育行政の重要事項について、市長との協議・議論を行うことができた。 ○学校訪問、運動会や入学式・卒業式等の学校行事や式典への出席、県主催の研修会等への参加を行った。			
評価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る D 期待以下
今後の対応	○教育現場の実態把握や意見交換、研修会等の参加による自己研鑽を行う。			

Ⅱ 教育施策の執行状況について

就学前教育

1 楽しく充実した幼児教育

早期からの情報提供や相談会の実施などによる柔軟できめ細かな対応ができるように一貫した支援体制を整え、保護者の意見を尊重した就学先を決定します。

【点検・評価シート 就学前教育】

		小区分	1	事務事業	1
小 区 分	楽しく充実した幼児教育				
事 業 名	小・中・高校、幼稚園及び保育園との連携		担当係	学校教育係	
事業の目的	適正な進路の決定				
事業内容	○臨床心理士による知能検査や複数体制での就学（教育）相談を行い、幼児・児童・生徒の様子について保護者の意見・意向の聞き取りをする。これをもとに必要に応じて教育支援委員会で審議し、保護者・本人の意見を尊重しながら進路を決定する。				
令和6年度 実施状況	○就学（教育）相談件数延べ147件（前年度142件）。教育支援委員会（臨時も含む）での判定件数36件（前年度38件）であった。 ○幼稚園、保育園、福祉施設と連携し、就学に不安を持つ保護者などに声かけや働きかけを行い、就学（教育）相談を促すことにより、不安を軽減するとともに就学に向けての準備や心構えを示唆した。 ○令和6年度は連絡協議会・研修会をそれぞれ2回実施することができ、参加者のニーズに応じたテーマで講話・講演が実施できた。				
成果・課題	成果 ○園への巡回相談を保健師・作業療法士・早期支援コーディネーターとともに年2回（1回目：年長、2回目：年少・年中）実施した。そのことで園との連携が図れ、より広く深い情報を収集することができた。 ○巡回相談での情報により年少児から専門機関と市教委・保育園と共通理解が図られ継続した連携に繋がっている。 ○就学先の学校への情報提供が早期に可能となったことで、入学前からの準備・入学後の迅速かつ適切な対応につなげることができた。 課題 ○特別支援教育の取組が、幼稚園・保育園ごとに差があり、支援を要する幼児の情報共有や就学時を見据えた連携が不可欠である。 ○保護者の気づきの促進、意識改革を継続して図る必要がある。				
評 価	A	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下			
今後の対応	○園訪問において、特別支援教育についての啓発を図るとともに、幼児や保護者への対応について指導助言を行う。 ○常に子どもの「よりよい育ち」を中心に、園訪問で共有した情報をもとに、保護者への気づきを促し、意識啓発ができるようにする。				

学校教育

2 楽しく充実した学校

教育内容及び教育環境を充実させることは、学校教育を充実する上で最も重要な施策であり、小規模の教育活動、学校施設の機能更新、特別支援教育など、楽しく充実した学校づくりに取り組みます。

【点検・評価シート 学校教育】

		小区分	2	事務事業	1
小 区 分	楽しく充実した学校				
事 業 名	小規模校の教育活動の充実			担当係	学校教育係
事業の目的	小規模特認校制度を継続し、児童・生徒数の少ない学校でのきめ細やかで特色ある教育に取り組み、児童・生徒数の増加を図る。併せて、角田小・中学校の連携について推進する。				
事業内容	○教員（講師）の配置等により小規模校の活性化を図る。 ○大村小学校に加え、角田小・中学校、合岩小・中学校についても、小・中学校合同行事や地域住民の参加行事を増やし、地域との繋がりを深める。 ○大村小学校、合岩小学校、合岩中学校を小規模特認校とする。 ○広報誌等を活用し、児童・生徒数の増加を図るとともに、各学校の特色を生かした教育活動に取り組む。				
令和6年度 実施状況	○学校間での児童数による格差（複式学級等）を解消するため、小規模校へ市費負担の非常勤講師（3人）を配置した。 ○5月に合岩小・中学校、並びに、角田小・中学校の合同運動会を開催し、小・中学校の枠を超えた縦割りの共同教育活動を実施し、交流を図ることができた。				
成果・課題	成 果 ○継続的に市費負担の非常勤講師を任用し、小規模校の複式学級解消に努めた。				
	課 題 ○児童・生徒数の減少による学校間の格差や保護者の不安感がある。 ○市費負担非常勤講師の人材確保が困難である。 ○中学校の小規模校では、部活動が充実していない、人間関係が固定するなどの弊害が起きている。				
評 価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下
今後の対応	○児童数の減少に伴い、小規模校の複式学級化及び少人数化が加速するため、市費負担非常勤講師の配置を引き続き要望し、複式学級の解消に努める。 ○急速な少子化に伴って、市内全ての学校で小規模校化が進んでいる。今後、学校規模の適正化という観点からも、市内の学校全体の将来的に望ましい姿を検討しながら、特色ある学校づくりをさらに推進する。				

【点検・評価シート 学校教育】

	小 区 分	2	事務事業	2
小 区 分	楽しく充実した学校			
事 業 名	学校施設の機能更新	担当係	教育総務係	
事業の目的	小・中学校施設及び設備の維持・更新を行う。			
事 業 内 容	○昭和 50 年代に建設され、築 40 年を超える校舎が多く、またその大半が老朽化しているため、修理・修繕を行う。 ○時代に沿った学校生活の環境を改善する。			
令和 6 年度 実施状況	○小・中学校の校舎、設備について随時、修繕を実施した。 ○令和 2 年度に導入された 1 人 1 台端末の更新を行った。			
成果・課題	成 果 ○校舎・設備について、緊急性を要するものを優先し、整備を行った。 ○1 人 1 台端末の更新を行い、次年度新 1 年生に対し新しいタブレットでの学習ができるよう整備ができた。今後令和 8 年度までの 3 ヶ年をかけて順次整備する予定である。			
	課 題 ○学校施設の老朽化に伴う修理・修繕費は、年々増加している。緊急の修繕が発生することもあり、予算の確保が困難になっている。 ○平成 16・17 年度に設置した普通教室のエアコンはすでに 20 年近く経過し、老朽化による修繕・取替が増加している。近年の気象状況等ではエアコンは不可欠である。 ○学校再編成を進めていることもあり、修繕については対症療法的なものにとどまっている。			
評 価	C	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る D 期待以下
今後の対応	○学校再編成を進めており、現在の学校施設については大規模な改修・修繕は行わない。しかし、現在、在学中の児童・生徒の安全確保のために必要な改修・修繕については、緊急性や優先度を検討した上で再編に関わらず行う。			

【点検・評価シート 学校教育】

小区分		2	事務事業	3
小 区 分	楽しく充実した学校			
事 業 名	特別支援教育総合推進事業の取組 (早期からの教育相談・支援体制構築事業の取組)		担当係	学校教育係
事業の目的	障がいのある幼児・児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行うために、その体制の整備を総合的に推進する。			
事業内容	○市内の巡回相談対象児童・生徒に対し、臨床心理士・言語聴覚士等による具体的な教育支援・心理支援の方法、特別支援教育担当指導主事・築城特別支援学校の教員による学習支援の方法等を示唆してもらい、一人ひとりの障がいの状態や特性に応じたきめ細かな指導を図る。			
令和6年度 実施状況	○学校の実態に応じて、臨床心理士・言語聴覚士・作業療法士・特別支援学校教員等による巡回相談を実施した。 ○実施校においては、特別に支援を要する児童・生徒の実態把握や具体的な支援方法等について学び、教職員間での共通理解を図ることができた。			
成果・課題	成 果 ○特別な支援を必要とする児童・生徒は増加傾向にあり、相談・支援等のニーズが高くなっている。そのため、迅速かつ的確な対応を求められるが、ここ数年は保護者および関係者への周知が図れているため、十分な対応ができた。 ○ここ数年間の研修会等（全員研修会等）で教職員の特別支援に対する理解が深まり、各学校での支援体制が整っていることから、相談につなぐ件数が確実に増えている。 ○個別の教育支援計画・指導計画について、学校に適切な助言を行うことで、より特性に応じた指導計画が作成できた。 課 題 ○「早期からの教育相談支援体制・構築事業」として、市独自で予算を組み実施し、今後も事業の成果・課題をもとにさらなる充実を図る。			
評 価	A	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下		

今後の対応	○事業を通して子ども一人ひとりの相談や保護者にも関与し、また、学校全体の指導の工夫と指導体制づくりに生かすことが大切である。 ○保護者を支える体制づくりを整えることが必要である。 ○年度当初に各学校長と特別支援教育担当者にこの事業についての周知を図り、回数だけでなく相談活動を効果的、効率的になるよう連携する。
-------	--

【点検・評価シート 学校教育】

	小区分	2	事務事業	4		
小 区 分	楽しく充実した学校					
事 業 名	学力向上に向けた取組	担当係	学校教育係			
事業の目的	学習指導要領の趣旨にのっとり、教育課程の適正な管理に取り組み、児童・生徒に学習の量と質を保障する。					
事業内容	○研修会や学校訪問等にて、教育課程の改善を図る。 ○校内研修に指導主事を派遣し、授業改善を図る。					
令和6年度 実施状況	○GIGAスクール構想に伴って整備されたICT機器を活用した日常的な授業づくりやオンライン学習を実施するために、研修会を実施し、指導助言を行った。 ○児童・生徒の学力実態を多面的に把握し、各学校の指導方法の見直し・改善に生かすために、国や県が実施する学力調査に加えて、市独自の予算で標準学力検査も継続実施し、各学校におけるPDCAサイクルに活用できるようにした。(小学校：12月、中学校1・2年：1月)					
成果・課題	成果 ○各学校においてICT機器を効果的に活用した授業づくりや、長期欠席を要する児童・生徒のための、学校と家庭とのオンライン学習などが進められている。 ○全国学力状況調査での正答率は、小学校においては国語・算数、中学校においては国語が国平均を上回った。また、県調査においても同様の結果が見られ、全国・県の水準が維持できている。 課題 ○一人一台端末を家庭に持ち帰り、日常的な家庭学習（予習・復習やドリル学習等）に活用する。 ○中学校の数学については、国・県平均を下回るなど課題が見られる。国及び県学力調査結果の要因分析を行い、今後の学力向上プランに反映させた上で、取組の検証・改善を確実に行う。					
評価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る D 期待以下		
今後の対応	○ICT機器を活用した授業づくりやオンライン学習などについて、小学校と中学校との事例を交流し、系統的な取組になるようにする。 ○学力向上に向けた取組の「計画」「実施」「検証」「改善」のPDCAサイクルが年間複数回設定できるように、引き続き研修会等で指導、助言する。					

【点検・評価シート 学校教育】

	小 区 分	2	事務事業	5
小 区 分	楽しく充実した学校			
事 業 名	放課後支援事業（ぶぜん学び道場 寺子屋）	担当係	学校教育係	
事業の目的	落ち着いた環境で自主的・主体的に学習に取り組み、家庭における規則正しい生活習慣づくりの基礎となる子どもの学習習慣の定着を図る。			
事業内容	○原則、小学校 4、5 年生を対象とし、平日の放課後、週 1 回 1 時間程度、自主的に学習できる環境を整備し、教員経験者等がコーディネーターとなり指導するほか、学習支援員には地域の人材を活用して、学習の援助や学習習慣の指導を行う。 ○児童は宿題や教科書の復習及び教育委員会が作成したプリント学習を行い、基本を確実に身につけ、自ら学び考える力を育み、自学を定着させ、学力の向上を目指す。			
令和 6 年度 実施状況	○大村すこやか塾を実施している大村小学校を除く小学校 9 校にて寺子屋を実施した。【参加児童数 56 名（前年度 57 名）、学習指導員 21 名】 ○ICT 機器等を活用した学習支援を実施するため、平成 28 年度よりタブレットによる教材アプリを活用し、内容の充実を図ることができた。			
成果・課題	成果 ○学期を重ねるごとに宿題、問題プリントなどに集中して取り組み、自主学習の基礎づくりができた。 ○学習だけでなく「寺子屋訓」を復唱することにより、挨拶を自主的にするようになり、規律の向上にもつながった。 課題 ○コーディネーター及び地域の人材を活用した学習支援員の確保が難しいため、より効果的な広報を行っていく必要がある。 ○各寺子屋の参加児童の学年が異なっていることから、参加児童の学年や年齢に合わせた学習内容にするように工夫する必要がある。また、タブレットなど ICT 機器の活用についても、学力定着に向けた工夫が必要である。			
評 価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る D 期待以下
今後の対応	○寺子屋において ICT 機器との連携や学習支援アプリの活用を深め、学習効果をさらに高める。			

【点検・評価シート 学校教育】

		小区分	2	事務事業	6
小 区 分	楽しく充実した学校				
事 業 名	心の問題への対応			担当係	学校教育係
事業の目的	様々な事例に対応できるように、相談窓口の多様化・充実を図る。				
事業内容	○「いじめ」「不登校」等の問題への対応を、小・中学校において組織的・計画的な取組を行い、家庭や関係機関と連携の充実を行う。 ○教育支援センターの機能の強化・充実し、支援の促進を図る。 ○教育相談室に臨床心理士を配置し、児童・生徒のみならず保護者・教職員のカウンセリングを行う。 ○県費による小・中学校へのスクールカウンセラー（SC）の配置を行い、教職員及び保護者へのカウンセリングと教職員への研修を行う。また、スクールソーシャルワーカー（SSW）を配置し、福祉の視点からの児童・生徒及び保護者支援を行う。				
令和6年度 実施状況	○小・中学校と関係機関の連携による「いじめ」「不登校」等の問題への早期支援と継続的対応の徹底を図り、併せて、小・中学校での豊かな人間性を育む教育活動の充実を行っている。 ○教育相談室では、子育てや子どもの発達状態等で不安を抱える保護者をはじめ、子どもの支援や指導等の対応に悩む教職員へのカウンセリングを行っている。相談件数は年間548件（来所505件、電話43件）であった。				
成果・課題	成果 ○学校と連携した教育支援センターの継続的で適切な支援や指導により、教育支援センターを利用しながら、生徒6名が学校復帰に繋がった。 ○学校と連携した教育支援センターの早期からの継続的な支援・指導により、児童・生徒の学校への復帰率が向上している。 ○行き渋り等に対し早期の教育相談により解決に至った例が見られた。 課題 ○令和4年度から県不登校支援強化事業を受け、SC・SSWの配当時間の増加が可能となり、市不登校対応連絡会により、不登校児童・生徒を抱える保護者への支援の充実を図ることができた。しかし、今後の不登校児童・生徒の状況を考えると、学校との連携を踏まえたきめ細やかな対応が必要である。				
評 価	A	A 期待以上	B 期待通り	C やや下回る	D 期待以下
今後の対応	○小・中学校と教育支援センターの連携をより一層緊密化し、課題を抱えた児童・生徒の実態把握と家庭・学校への支援強化を行う。				

【点検・評価シート 学校教育】

		小 区 分	2	事務事業	7
小 区 分	楽しく充実した学校				
事 業 名	教育環境の充実		担当係	教育総務係 学校教育係	
事業の目的	多様化する学校教育において、子どもの「生きる力」を育み、楽しく充実した教育を推進する。個性や価値観を尊重し、お互いを認め合う心や社会の変化に的確にかつ柔軟に対応できる力など、人間性豊かでたくましい子どもたちを育成するために、学校の教育環境を充実させる。				
事業内容	○学校生活において支援が必要な児童・生徒の適切な就学補助を行う。 ○ICT 教育では、GIGA スクール構想にのっとり、設備の充実とサポート体制の確立、教職員に対する ICT 機器を用いた授業への積極的な活用の推進を行う。 ○英語に慣れ親しむ環境を整えるため、小・中学校に英語教育助手を配置する。				
令和6年度 実施状況	○特別な支援が必要な児童・生徒には、学校生活に支障がないように特別支援教育支援員を配置した。また、日本語が不自由な外国人児童・生徒も増加しており、日本語指導と学校生活の支援を行う支援員を配置した。 ○ICT 教育では、ICT 教育推進協議会を組織し、学校の考えを十分に把握しながら、電子型ドリルの導入や ICT 支援員を配置することで学習環境の充実を図った。 ○英語教育では、小学校及び中学校に外国語指導助手（ALT）2 名及び非常勤講師 1 名を配置した。さらに中学校では、AI によるオンライン英会話レッスンを実施するなどして英語教育の充実に努めた。				
成果・課題	成 果 ○小学校低・中学年から英語に慣れ親しみ、楽しさを実感させ、高学年から中学校へのスムーズな移行ができる教育体制が整えられている。 ○ICT 教育に関しては、ICT 支援員を配置し、専門的なアドバイスを受け、タブレットと電子黒板を一体的に授業に活用することで、児童・生徒の興味関心を引くことに役立ち、学習意欲の向上につながっている。 課 題 ○学校では多様な支援を必要とする児童・生徒が年々増加している。それに伴って、支援員の人材確保と予算確保が毎年の課題である。				
評 価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下			
今後の対応	○特別支援教育支援員は、各学校の意向を確認しながら適切な配置を行うとともに、限られた予算と人員で、効率的な運用ができるよう工夫する。 ○ICT 教育は、教員各自が授業に積極的に ICT を活用してより効果的に取り組むことができるように、引き続き指導していく。				

【点検・評価シート 学校教育】

	小区分	2	事務事業	8
小 区 分	楽しく充実した学校			
事 業 名	効率化・安全性を考慮した学校給食	担当係	学校教育係	
事業の目的	おいしく栄養面を考慮した献立			
事 業 内 容	効率的な学校給食運営及び地産地消			
令和 6 年度 実施状況	○地元産米を完全使用し、米飯を週 4 回実施している。(平成 21 年度より) ○献立委員会を学期ごとに開催し、献立内容の反省・協議を行った。また、旬の食材を献立に取り入れるなどし、地場産食材の学校給食への利用推進を図った。 ○令和 5 年度に八屋中学校を除く 1.3 校が民間委託となり、小学校 10 校、中学校 3 校の給食調理業務委託を実施している。			
成果・課題	成 果 ○食物アレルギー対応を希望する全児童・生徒の保護者と面談を行い、学校・調理員・教育委員会が連携を取り、アレルギー対応給食の提供を行っている。 ○給食調理業務の民間委託により、民間事業者の専門的知識、経験、技術やノウハウを生かしながら、経費削減に努めた。 課 題 ○食物アレルギーによる除去食の対応が必要な児童・生徒が増加傾向にあり、個々に対応した給食の提供をするための人員の確保や環境を整える必要がある。 ○給食調理室については、老朽化が進んでおり、衛生面の環境が整っておらず、効率よく調理作業が実施できていない。「学校給食の衛生管理における調査研究」では、多くの指摘事項も受けており、学校再編成計画に合わせて改善を進める必要がある。 ○JA が学校給食から撤退したため、食材の多くを地元の商店から購入している。物価高騰が年々進み、安定した価格での購入が難しい。地産地消を進めるため、地場産食材を安定した価格で購入できるルートを引き続き検討していく必要がある。			
評 価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る D 期待以下
今後の対応	○今後、学校給食の民営化については、学校再編を考慮しながら、現場の給食調理員等と協議を行っていく。 ○学校給食の衛生管理については、研修を実施し知識や技術を向上させるとともに、施設改修を進めていく。			

【点検・評価シート 学校教育】

		小 区 分	2	事務事業	9
小 区 分	楽しく充実した学校				
事 業 名	学校再編成			担当係	学校再編
事業の目的	豊前市立学校の再編成				
事業内容	児童・生徒数や出生数の減少、学校施設の老朽化により、豊前市立学校の望ましい教育環境を整備するため、豊前市立学校適正配置基本方針に基づき豊前市立学校14校を再編成することで、次世代の子どもたちに対し質の高い教育環境の充実を図る。				
令和6年度 実施状況	○義務教育学校整備事業設計業務委託 完了 (R5.6.26～R6.7.31) ○豊前市立豊前蔵春学園整備工事 契約 (R6.11.28～R8.3.13) ○新設中学校整備事業設計業務委託 完了 (R5.8.30～R7.2.28) ○豊前市立学校再編成準備協議会を開催し、学校再編成に関する諸課題の検討及び調整を行った (全体会4回、総務部会5回、通学部会3回、制服・PTA部会4回、施設部会2回、教育部会3回) また協議結果や学校再編成に関する進捗状況について協議会だより・市報・市HP等において周知を図った。 ○歳入確保の取組みとして市庁舎へ募金箱を設置し、またクラウドファンディングの実施について検討を行った。				
成果・課題	成 果 ○豊前蔵春学園の設計業務を完了し、工事契約を締結した。 ○豊前中学校の設計業務を完了した。 ○再編成準備協議会において、新設する4校の校章、中学校の体操服や通学路の安全対策および小学校の通学方法等を決定し、また豊前蔵春学園の教育指導計画について協議を行った。				
	課 題 ○新築、増築・改修、既存改修と仕様や校種も異なる4校の新設に向け、統一感と差別感を打ち出す必要がある。また質の高い教育環境を実現するため、物価高騰等による建築費の増加に伴う対応と対策が必要である。 ○建設に関し、工期の遅れや想定外の事態への対応と対策が必要である。 ○進捗状況やそのプロセスについて市民に広く周知し、地域・保護者・学校と協力しながら、各学校の開校に向け事業を進めていく必要がある。				
評 価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下			

今後の対応	○令和8年度の義務教育学校、令和9年度の新設中学校、令和11年度の2校の新設小学校開校を目指し、情報発信と説明を継続し、地域住民の理解を得られるよう努め、地域や関係機関等とも協力しながら、開校準備を進めていく。 ○豊前蔵春学園及び豊前中学校の建設、また小学校2校の設計に着手し、各校の建設に向けて事業を進めていく。
-------	---

社会教育

3 社会教育推進体制

社会教育体制の確立は、長期的視野に立った取組が必要なことから、社会教育主事の育成を図るとともに、社会教育事業を推進します。

【点検・評価シート 社会教育】

		小区分	3	事務事業	1
小 区 分	社会教育推進体制				
事 業 名	社会教育主事の活用			担当係	生涯学習係
事業の目的	社会教育主事等専門知識を有する人材を育成し、社会教育事業を推進する。				
事 業 内 容	○社会教育主事等による社会教育関係事業の支援を行う。				
令和6年度 実施状況	○社会教育主事講習については、参加できなかった。 ○コロナ禍明けにおける、子ども会活動等について検討をした。				
成果・課題	成 果 ○コロナ禍明けに伴い、社会教育主事の助言のもと、事業をいかに回復させるかの検討を行った。 課 題 ○担当係に新たな社会教育主事の配置が必要だが、研修受講時間の確保等、が難しく、新規の資格取得者はいなかった。				
評 価	C	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下			

今後の対応	○様々な世代や地域社会に対応できる社会教育を目指す。
-------	----------------------------

4 青少年教育

体験学習事業、子ども会育成活動への支援、家庭教育についての事業を行います。

【点検・評価シート 社会教育】

		小区分	4	事務事業	1
小 区 分	青少年教育				
事 業 名	体験学習の推進			担当係	生涯学習係
事業の目的	体験活動を通して子ども達の生きる力を育む。				
事業内容	○体験活動を通して生活習慣や様々な知識・技能を身に付け、豊かな人間性や生きる力を育む。				
令和6年度 実施状況	○インリーダー研修は、小学生5・6年生対象に子ども会活動のリーダーを育成する重要研修である。宿泊研修を日帰り研修とすることで、感染拡大等大きな問題もなく実施できた。 ○対象が中・高校生のジュニア・リーダーは、インリーダーの指導的立場で活動するとともに、各種市内イベントの役割を担う場を提供し、参加者は様々な体験学習をすることができる。新型コロナウイルスで中止になっていた京築カルタ大会や募金活動など事業が再開し、体験学習の場を確保できた。				
成果・課題	成果 ○6月合河公民館で、昨年に続きインリーダー研修会を開催し、小学生10名の参加があり、指導ジュニア4名の参加があった。 ○豊前市ジュニア・リーダークラブは32名の登録（令和7年3月現在）、各種イベントが再開し、昨年と同等の活動量を確保出来た。 ○研修や活動を通して大人・子ども・地域のつながりによる自己肯定感の育成に効果がみられた。体験学習により、生きる力を育成することができた。 課題 ○地域によって体験学習の取り組みに対する温度差があり、活動に偏りがあり、単位子ども会や子ども会員が減少している。 ○コロナ禍でインリーダー研修会を2か年中止した影響か、ジュニアリーダークラブの加入者が減少、インリーダー研修の募集方法の見直しや、開催回数の増などの改善を検討する必要がある。				
評 価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下			
今後の対応	○子ども会活動の体制を見直す。子ども会員に限定せず、インリーダー研修参加者を広報で募集する。				

【点検・評価シート 社会教育】

	小 区 分	4	事務事業	2		
小 区 分	青少年教育					
事 業 名	地域との連携	担当係	生涯学習係			
事業の目的	家庭教育の向上、地域教育力の活用を目指す。					
事業内容	○就学年齢の世帯を対象に家庭教育の大切さについて啓発する。 ○青少年育成市民会議による子育て世代を対象に親子教室を実施する。 ○青少年育成市民会議による市内店舗への立入調査を年2回実施する。					
令和6年度 実施状況	○入学説明会時に市内小学校10校で、基本的しつけ、子どもに示す親の姿、早寝早起き朝ごはん等、家庭教育の大切さを伝えるチラシと就学年齢に関連する各種支援制度のチラシの配布を行った。 ○山田公民館で、親子教室を開催。 【親子教室】 令和6年11月19日（火） 目からウロコの足裏 ～脳にもからだにも、いい足裏教室 講師：谷 昌子 先生 ○青少年育成市民会議による市内店舗への立入調査を年2回実施した。 （令和6年7月11日、令和6年11月8日）					
成果・課題	成果 ○就学年齢の家庭用に作成したチラシの配布について学校の協力が得られた。 ○0歳～就学前の子育て世代の親子を対象とした親子教室のアンケートでは、感動のことばが多く、講演内容に対して関心の高さが伺え、満足度は高かった。（参加18組31名） 課題 ○子育て世代の親子を対象とした親子教室については、コロナ対策の人数制限をなくしたが、引き続き感染対策は行う必要がある。					
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下				
今後の対応	○家庭教育の大切さを周知し、事業のより効果的な実施を検討する。 ○出産・子育て世代に周知、広報を強化する。 ○関心の高い題材、伝えるべき内容を考慮し、参加しやすい場所、時間帯、曜日に講演会を開催する。					

【点検・評価シート 社会教育】

		小区分	4	事務事業	3
小分類	青少年教育				
事業名	各種団体への支援			担当係	生涯学習係
事業の目的	社会教育団体との連携を通じて、社会教育事業の推進を図る。				
事業内容	○子ども会連合会(千束・角田・宇島地区を除く 8 地区)、ジュニア・リーダークラブ、青少年育成市民会議など各社会教育団体への支援を行う。 ○地域支援事業を実施する。				
令和 6 年度 実施状況	○子ども会連合会では、豊前てんぐウォークでぜんざいを作り、参加者へふるまった。 ○ジュニア・リーダークラブでは、インリーダー研修、二十歳を祝う会、豊前てんぐウォークの運営を支援した。 ○青少年育成市民会議では各支部への支援や花いっぱい運動等を実施した。 ○地域支援事業（各地域の異世代交流や夏休み子どもの居場所づくり、通学合宿等助成）昨年度に引き続き申請がなかったため、本年度で事業廃止とした。				
成果・課題	成果 ○ジュニアリーダーは、再開された各種行事の運営を支援し活動量がほぼ回復した。 ○コロナ禍により中止された、かるた大会が令和 5 年度から再開。ただし、令和 5 年度、6 年度と大会不成立。 ○三毛門地域では、通学合宿を実施。 課題 ○子どもの減少に加えコロナ禍期間の活動凍結の影響で経験ある指導者の引継ぎが無くなり、組織の解散、縮小、行事の減少が見られる。				
評価	C	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下			
今後の対応	○対応が大変難しく、抜本的な対策はない。子どもが楽しめ、保護者からも喜ばれる新たなイベント等の実施など地道に人の集まる体験活動の場を増やすため、各種団体への支援を継続する。 また、新たな活動方法の模索、支援方法の検討が必要と思われる。				

5 社会人への支援

男女共同参画拠点施設としてのハートピアぶぜんでの学習支援事業推進や、ボランティア団体の育成、各種団体への支援等を行います。

【点検・評価シート 社会教育】

	小区分	5	事務事業	1
施 策 名	社会人への支援			
事 業 名	学習機会の提供	担当係	生涯学習係	
事業の目的	市民のニーズに合わせた社会人への学習機会を提供する。			
事 業 内 容	○ハートピアぶぜんで講座を実施する。			
令和6年度 実施状況	○通年の講座の他、特別講座として、楽しいガーデニング、セルフケアのツボ、楽しく歌って誤えん予防、クリスマスリースづくり、しめ縄づくり、クラフトバンドの6講座を実施した。 【ハートピアぶぜん】 通年20講座、特別6講座、年間施設利用者数 12,536 人(前年度 11,162 人) ○男女共同参画拠点施設として「心の相談」窓口が開設されている。 ○一部の特別講座の開催場所を地区公民館で行った。			
成果・課題	成 果 ○例年どおり通年講座は6月開講。受講者が様々な講座を受講し、教養やスキルを深めるなど学習支援の機会が提供された。特別講座は好評で、定員を上回る応募があった。 課 題 ○様々な趣味、教養、健康講座の可能性を模索し、新たな講座を開設し、市民のニーズに応えたい。			
評 価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る D 期待以下
今後の対応	○様々な価値観、ニーズに対応する講座の充実を図る。 ○地区公民館等でも市主催講座を開催することを検討する。			

6 公民館運営

異世代間交流の促進や地域コミュニティ、情報発信基地として施設の環境整備を図ります。

【点検・評価シート 社会教育】

		小区分	6	事務事業	1
小 区 分	公民館運営				
事 業 名	施設機能の整備		担当係	生涯学習係	
事業の目的	「情報発信基地」及び「地域の拠点としてコミュニティセンター」の機能を果たす施設運営を図る。				
事 業 内 容	○公民館を社会教育施設としてだけでなく、福祉、子育て、防犯、防災等の地域活動の拠点として有機的に機能する様、施設のコンディション維持に努める。				
令和 6 年度 実施状況	○雨漏り、消防設備、浄化槽、エアコン、トイレ、自動ドア、コインタイマー等公民館の基本機能の不具合や老朽化に伴う修繕を実施した。 ○昨年度よりも利用者が増加したものの、コロナ禍以前の回復はなかった。				
成果・課題	成果 ○多くの公民館が地域のコミュニティ活動の拠点となり、子どもから高齢者まで地域活動の心となり機能している。主として市からの情報発信の広告塔となっている。 ○施設機能は現状維持。台風などによる避難所開設が行われた（台風 10 号接近により令和 6 年 8 月 29 日 16 時から 30 日 9 時の間に全 12 公民館で開設の 1 件。） 課題 ○施設の長寿命化を図る予算確保が難しく、必要な整備が出来ない。 ○社会的背景や利用者の要望をくみ取り対応する。 ○防災拠点としての施設整備や活用拠点としての整備を進める。 ○電気料金単価の上昇が懸念される中、照明器具 L E D 化は横武公民館事務室のみでほとんど進んでいない。				
評 価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下			

今後の対応	○老朽化した公民館を計画的に整備し、必要な施設機能の維持に努める。 ○照明器具の適正化に努める。 ○地域づくり推進事業は、令和6年度より総務部市民協働課に移行したため地域活性化事業が円滑に実施できるよう市民協働課と連携する。
-------	---

スポーツ振興

7 地域スポーツの振興

スポーツ人口の底辺拡大、競技スポーツにおける一貫した指導体制の確立を図ります。

【点検・評価シート スポーツ振興】

		小 区 分	7	事務事業	1
小 区 分	地域スポーツの振興				
事 業 名	総合型地域スポーツクラブ事業		担当係	スポーツ振興係	
事業の目的	民間主導型による生涯スポーツの推進を行う。				
事 業 内 容	○総合型地域スポーツクラブの活動を支援する。				
令和6年度 実施状況	○コロナ禍以降、活動自粛の影響が長引き各団体の会員数が減少傾向であったが、「ぶぜんピープルズ」は会員増となった。 ○「ぶぜんピープルズ」は、競技スポーツを中心に毎週 11 種目 15 教室を開講した。【会員数】244 名（前年度 228 名） ○「よろうや」は、各公民館で健康教室を毎週 14 教室開講した。 【会員数】129 名（前年度 141 名）				
成果・課題	成 果 ○各クラブの年間計画どおりに開講された。				
	課 題 ○活動の主な収入源が会費であるため、新たな会員の確保を図るとともに、会員が減少する場合には、実施回数を調整する等、運営体制の改善が必要である。				
評 価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下			

今後の対応	○市が引き続き一部財政支援を行いながら、運営体制の強化及び会員確保に向けた PR の強化を図る。 ○総合型地域スポーツクラブとの連携を図りながら、いつでも・どこでも・だれでも参加できるスポーツクラブとして認知度を高め、身近なスポーツ活動拠点として確立する。
-------	--

8 スポーツ活性化

青少年のスポーツの振興を図るべく、プロスポーツ選手等との交流を行います。また、障がい者のスポーツの振興を図るため、スポーツ活動に取り組める環境づくりを促進します。

【点検・評価シート スポーツ振興】

		小区分	8	事務事業	1
小 区 分	スポーツ活性化				
事 業 名	青少年のスポーツの振興			担当係	スポーツ振興係
事業の目的	青少年の健全育成のため、青少年のスポーツ振興を図る。				
事 業 内 容	○プロスポーツ選手等による各種スポーツ教室を開催する。				
令和6年度 実施状況	○日本や世界を舞台に活躍するトップアスリートと、身近に接するスポーツ教室を開催し、スポーツ選手のスピードや強さ、精神力を感じ、将来スポーツ選手になりたいという子どもの夢を育む取組として、「サッカー教室」（小学生22名）、「野球教室」（小学生37名、中学生48名）、「バドミントン教室」（小学生39名、中学生3名、高校生6名、一般3名）「ゴルフ教室」（小学生20名）、「ソフトテニス教室」（小学生6名、中学生18名）を開講した。				
成果・課題	成 果 ○令和6年度は5種目の教室を開催した。また、参加者は、プロ選手等の指導により意欲的に取り組み、将来の夢を現実として体験できた。				
	課 題 ○スポーツ未経験の青少年がスポーツを始めるきっかけづくりとなるよう、教室の概要やPR等の更なる推進を図る。				
評 価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下			
今後の対応	○引き続き各スポーツのトップアスリートによる教室を開催し、青少年のスポーツ振興を図る。				

【点検・評価シート スポーツ振興】

		小 区 分	8	事務事業	2
小 区 分	スポーツ活性化				
事 業 名	障がい者のスポーツの振興			担当係	スポーツ振興係
事業の目的	障がい者の健全育成のため、障がい者のスポーツ振興を図る。				
事 業 内 容	○障がいのある人が、スポーツを楽しめる機会として、市民プール一日無料開放、ボッチャ大会を開催。				
令和6年度 実施状況	○障がいの有無に関わらず、誰でも楽しめる豊前市民プールを一日無料開放し、元気に楽しめる機会の提供や生きがいづくりをはじめ、今後の障がい者スポーツ体験づくりの場の推進につなげることを目的として、「豊前市民プールダイバーシティ Day」を開催。参加者 129 名 (R5 114 名) ○年令、性別、障がいの有無に関わらず、みんなで楽しめるスポーツであるボッチャ競技を通じて、交流の場を広げるとともに、障がい者への理解を深めることを目的とし、「豊前市ボッチャ交流大会」を開催。参加 24 チーム (1 チーム当たり 3 名～4 名) (R5 20 チーム)				
成果・課題	成果				
	○開催をよろこぶ声をたくさんいただいた。障がいのある子どもを中心に、保護者、行政、福祉従事者、その他関係者が集い連携を図りながら無事に終えることができた。				
成果・課題	課題				
	○スポーツ未経験の障がい者がスポーツを始めるきっかけづくりとなるよう、教室・大会の概要やPR等の更なる推進を図る。				
評 価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下			
今後の対応	○引き続き市民プール一日無料開放、大会・教室を開催し、障がい者のスポーツ振興を図る。				

		小区分	8	事務事業	3
小 区 分	スポーツ活性化				
事 業 名	第 30 回世界少年野球大会福岡大会		担当係	スポーツ振興係	
事業の目的	青少年の健全育成のため、友情を育み、心身ともに健やかに成長することを目的とする。				
事業内容	○世界各国の少年少女が集まり、友情と親善の輪を広げるため野球教室や地元野球チームと交流行事、ホームステイを実施。				
令和 6 年度 実施状況	○世界少年野球事業は、日米のホームラン王である、王貞治氏とハंक・アーロン氏が提唱した「正しい野球の普及と、少年少女たちの友情・親善の輪を広げる」ことを目的とした活動で、第 30 回となる福岡大会は、過去大会と異なり福岡県内で 9 市町が事業に参加した。 豊前市は、マレーシアの子ども 5 名、福岡県外の子ども 5 名、シャペロン 1 名、ホストスタッフ 2 名、アシスタントコーチ 2 名、WBSC コーチ 1 人の計 16 名を受け入れ、地元野球チームの豊前ウイングス、三毛門少年野球クラブのみなさんと一緒に野球教室をはじめ、バーベキューによる懇親会、河川プールでの川遊び、大分製紙工場見学、勾玉づくり等さまざまな交流事業を実施した。 世界少年野球福岡大会期間 令和 6 年 7 月 28 日（日）～8 月 5 日（月） 豊前市受入期間 令和 6 年 7 月 30 日（火）～8 月 2 日（金） ・ 7/30 合河公民館宿泊 ・ 7/31～8/1 県外日本人：三毛門少年野球チーム各家庭ホームステイ マレーシア：豊前ウイングス保護者会宇島公民館宿泊				
成果・課題	成果 ○豊前市受入初日に「ウエルカムパーティ」を開催し、マレーシアのハラルフード、地元産の食材を使用し、豊前市の子ども・保護者とともにバーベキューを楽しんだ。その後子どもたちは、ペットボトルのふたを使用して野球を楽しんでいたのが印象的だった。様々な交流事業を行い、マレーシアの子どもたち、県外の子どもたちは、豊前市ならではの体験活動を通して、「また豊前市にきたい」と大変好評だった。 課題 ○主催者側の制約が多く、直前での予定変更等多く地元野球チームの保護者の方々にご苦勞をおかけした。今後の新規事業については、主催者側と十分協議を交わして実施することを心掛ける。				
評 価	A	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下			
今後の対応	○引き続き青少年のスポーツ振興を図る。				

9 施設の整備

スポーツ施設の整備を図ります。

【点検・評価シート スポーツ振興】

		小区分	9	事務事業	1
小 区 分	施設の整備				
事 業 名	スポーツ施設の整備			担当係	スポーツ振興係
事業の目的	市民スポーツ推進のため、必要な施設の整備を行う。				
事 業 内 容	○スポーツ施設を整備する。				
令和6年度 実施状況	○照明設備賃貸借契約（R6.12.1～R16.11.30） ・豊前市民球場照明設備リース料 ・ミニグラウンド照明設備リース料 ・テニスコート照明設備リース料 ○豊前市民球場電気工事（外灯） ○豊前市民プールシート修繕工事				
成果・課題	成 果 ○利用者の安全確保を図り、利便性向上のため施設を整備した。 課 題 ○公共施設の老朽化に伴い、大規模改修を必要な施設・設備が多く、計画的な整備と予算の確保が必要である。				
評 価	C	A 期待以上 B 期待どおり		C やや下回る	D 期待以下
今後の対応	○昭和53年から順次建設された各スポーツ施設は、様々な問題が蓄積しており、利用者の安全性や緊急度の高いものから計画的な整備を行う。				

生涯学習

10 生涯学習推進体制

職員に対し意識の徹底を図り、市民への情報提供を行います。

【点検・評価シート 生涯学習】

		小区分	10	事務事業	1
小 区 分	生涯学習推進体制				
事 業 名	豊前市生涯学習推進基本計画		担当係	生涯学習係 地域づくり推進係	
事業の目的	地域住民の豊かで健やかな生き方を目的とした「学習プログラムの構築・生涯スポーツの推進・公民館の活性化・地域の力を活かす」ことを重点目標に事業を実施する。				
事業内容	○「豊前市生涯学習推進基本計画」に沿って事業を推進する。				
令和6年度 実施状況	○「第2期豊前市生涯学習推進基本計画」に基づき、地域と協働し取組みを行った。				
成果・課題	成果 ○既存の学習プログラム（ハートピアぶぜん主催講座・ぶぜんピープルズ等）を核にその他各公民館等で学習プログラム及び卓球などの生涯スポーツの実施が見られた。 課題 ○今後は、各地域の現状や特色に配慮しながら、公民館の活性化・地域の力を活かす取り組みを進めたい。				
評 価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下			
今後の対応	○地域づくり推進事業は、令和6年度より総務部市民協働課に移行した。 ○令和3年度から継続して「第2期生涯学習推進基本計画」に沿って各種事業を推進する。				

1 1 生涯学習情報提供

生涯学習推進幹事会において、生涯学習情報を活用するための収集と整理を行います。
市職員の生涯学習の情報提供及び推進に係る意識改革を行い、全庁的な実働を見据えた体制づくりを目指します。

【点検・評価シート 生涯学習】

	小区分	11	事務事業	1
小 区 分	生涯学習情報提供			
事 業 名	生涯学習プログラムの構築		担当係	生涯学習係
事業の目的	生涯学習の推進を図るため、各課の事業の生涯学習との関連性を整理する。			
事 業 内 容	○第2期生涯学習推進基本計画に基づいた各課の事業進捗の把握。			
令和6年度 実施状況	○プログラム及び計画は現状維持。			
成果・課題	成果 ○豊前市役所各部署の生涯学習プログラムの実施状況を調査し、実施率は約70%、市政出前講座の実施率は約2%であった。			
	課題 ○担当職員だけでなく、全職員が生涯学習推進の重要性を共有し、全庁的に取り組むべく働きかけを行うことが必要である。			
評 価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る D 期待以下
今後の対応	○各課から提供される情報についての有効利用方法を検討する。 ○継続して全庁的に生涯学習を推進する体制整備と市職員の意識改革に取り組む。			

12 生涯学習の実践

市職員による実施を可能とするため、十分な職員研修が必要で、職員の資質の向上を図ります。

【点検・評価シート 生涯学習】

	小区分	12	事務事業	1
小 区 分	生涯学習の実践			
事 業 名	市職員による出前講座の実践		担当課	生涯学習係
事業の目的	行政施策、行政情報を学習プログラムとして構築する。			
事 業 内 容	○行政サービスの内容を学習メニューとして構築し、公民館の学習会等で必要に応じて提供する。			
令和6年度 実施状況	○市政出前講座は、今年度は健康長寿推進課・健康増進係は「健康づくり」講座を8回実施した。			
成果・課題	成 果 ○今年度は、1係1講座のみ実施した。 課 題 ○出前講座を活用してもらうため、各課での工夫とPRが必要である。			
評 価	C	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る D 期待以下
今後の対応	○第2期豊前市生涯学習推進基本計画の生涯学習プログラムの一環として位置づけ、実践していく。			

【点検・評価シート 生涯学習】

		小区分	12	事務事業	2
小 区 分	生涯学習の実践				
事 業 名	書道ボランティアの活用			担当係	生涯学習係
事業の目的	「知の循環」としてボランティアの活用を図る。				
事 業 内 容	○地域活動指導員がコーディネートし、小学校で書道ボランティアの活用を図る。				
令和6年度 実施状況	○書道ボランティアは9小学校で9名のボランティアにより実施した。 ○参集しての書道ボランティア会議に変え、書面により、活動内容についての確認や各学校の状況について情報共有を行った。				
成果・課題	成 果 ○小学校の書道授業現場に書道ボランティアとして実技指導に入ることからキメの細かい内容の濃い授業が行われた。				
	課 題 ○書道ボランティアの高齢化により、後継者の育成が喫緊の課題である。 ○書道ボランティアもコミュニティスクールの取組みの中で活動を検討するとともに、ボランティアセンターに登録しての活動を検討する必要がある。				
評 価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下
今後の対応	○地域づくり推進事業は、令和6年度より総務部市民協働課に移行したことに伴い、ボランティアセンターとの連携等についても移行した。				

文化財の保護と活用

1.3 文化財の整備と活用

文化財を活用した教育普及活動は市民の郷土愛を育むために最も重要な施策で、求菩提資料館・豊前市立埋蔵文化財センターでの講演会や学校への出前歴史授業・出版物の配布等を実施し、広く市民に啓発します。

【点検・評価シート 文化財の保護と活用】

		小区分	13	事務事業	1
小 区 分	文化財の整備と活用				
事 業 名	国史跡「求菩提山」の整備			担当係	文化芸術係
事業の目的	国史跡の活用を行うため、史跡求菩提山整備基本計画・保存管理計画書及び西谷地区整備活用計画書に則り、計画的な整備を実施する。また国史跡指定地の私有地の公有化を進めるとともに、重要文化的景観「求菩提の農村景観」の保護推進を整備活用計画に則って実施する。				
事 業 内 容	○岩屋坊の保存修理（3年次）・国玉神社中宮浮殿修復工事（1年次） ○求菩提地区の土地公有化と文化的景観保護推進事業。				
令和6年度 実施状況	○岩屋坊の保存修理工事（最終年度）および国玉神社の浮殿の解体修復工事（1年次）を実施した。杉谷参道の災害復旧工事は台風10号の影響で工事内容の見直し等が生じ、事業を7年度に繰り越すことになった。 ○国史跡指定地の私有地の土地公有化で、求菩提地区の県道～座主園地駐車場間の道路沿いに位置する保安林計2筆（計9,949㎡）を購入した。 ○文化的景観保護推進事業は、伝統的建物「井手上家住宅」追加調査及び整備活用計画策定委託、令和4年度に修復したツチ小屋の解説板・案内表示板設置工事、地元勉強会を2回実施した。				
成果・課題	成 果 ○令和4年度に着工した岩屋坊保存修理工事が6年度で完成した。 ○公有化は当初購入予定5筆のうち地権者との交渉に時間を要した保安林3筆（12,269㎡）の購入を次年度繰越とした。				
	課 題 ○求菩提地区に残る2棟の坊屋の保存修理工事が終了し、今後の史跡活用に向けて便益施設（トイレ）の設置等の必要がある。また、如法寺地区で石龕の覆屋の老朽化がみられ修復を要する。 ○公有化は購入計画を見直し、対象地を慎重に選び事業化する必要がある。				
評 価	C	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下			
今後の対応	○求菩提地区の整備事業で、杉谷参道の路面修復を主とする災害復旧工事（2年次の繰越）、国玉神社浮殿修復工事（2年次（最終））を予定している。				

1.4 文化財の公開

求菩提資料館と埋蔵文化財センターを活用して、さまざまな情報の提供を行います。

【点検・評価シート 文化財の保護と活用】

		小区分	14	事務事業	1
小 区 分	文化財の公開				
事 業 名	展示施設の整備と教育普及活動			担当係	文化芸術係
事業の目的	施設で調査収集した文化財資料を一般に公開展示することにより、地域の歴史に対する理解を深め、文化財愛護精神の高揚並びに地域文化の再認識に繋げる。				
事業内容	○求菩提資料館では、修験道文化を常設展示し、またテーマや対象を絞った企画展を実施することで、幅広い年齢層の見学者や多種多様なグループの来館を促す。 ○豊前市立埋蔵文化財センターでは、常設展示や企画展を実施し、また出前歴史教室や校外学習を受け入れる等により、地域の歴史の理解を促す。				
令和6年度 実施状況	○求菩提資料館は開館 50 周年を迎え、秋季に記念行事（特別展・講演・コンサート）を実施し、例年通り春季企画展、夏休みミニ企画展、写真コンクール、早春企画展「おひなまつり」、市民歴史講座等を開催した。 ○豊前市立埋蔵文化財センターでは企画展『蔵春園とゆかりの人びと』と記念講演、県主催の『世界遺産「明治日本の産業革命遺産」』巡回パネル展、求菩提資料館「おひなまつり」と連動した展示企画を実施した。また、小学生対象の夏休み体験講座、出前歴史授業、一般向けの体験講座を実施した。				
成果・課題	成 果 ○求菩提資料館の年間入館者は 7,688 人。（前年度入館者数 5,613 人） ○豊前市立埋蔵文化財センターの年間入館者数は、2,265 人。 （前年度入館者数 1,561 人）				
	課 題 ○求菩提資料館は設備の老朽化への対応が必要であり、県と協議している。 ○豊前市立埋蔵文化財センターは、企画展、求菩提資料館と連動した企画時の入館者が増え、企画のテーマによっては人が呼べることが判る。入館者を増やすため、魅力ある企画展や体験講座、PR 等の活動が必要。				
評 価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下			

今後の対応	○今後も求菩提資料館と豊前市立埋蔵文化財センターが連携し、施設相互に見学者の流れが出来ることを目標にする。 ○求菩提資料館の老朽化については、県の施設であることから、今後も引き続き要望活動を行う。 ○豊前市立埋蔵文化財センターは、企画展・講座等の充実を図り、広報関係もあらゆる方法を活用し、施設の見学者増・利用を促進する。
-------	--

【点検・評価シート 文化財の保護と活用】

	小 区 分	14	事務事業	2
小 区 分	文化財の公開			
事 業 名	各種情報の発信	担当係	文化芸術係	
事業の目的	豊前市内の文化財の情報を、インターネットや冊子資料を通して外部へ発信し、豊前市のイメージ作りと観光客への情報提供の手段の一つとして活用することで、全国に豊前市をPRする。			
事業内容	○豊前市ホームページで民俗芸能情報や指定文化財の紹介をインターネットで配信するほか、紙媒体（ガイドブック、広報誌等）も活用する。			
令和6年度 実施状況	○例年、豊前市ホームページに神楽奉納日程情報等の民俗芸能情報を掲載している。令和6年度の神楽奉納は、ほぼコロナ禍前と同じ状況で実施した。 ○豊前市立多目的文化交流センターでは、豊前市や京築地域の民俗芸能に関する展示を実施している。コロナワクチン集団接種会場であった令和4年度まで一部撤去していた展示品を戻して再度展示している。 ○令和2年度に学び推進事業で作成した郷土の文化財（求菩提山・宇島港・豊前神楽）がテーマの映像教材を学習ツールとして希望する学校に貸出すようにしているが、現在は主に出前歴史授業の教材として活用している。			
成果・課題	成果 ○指定文化財の拝観、神楽奉納・公演等に市内外からの問合せや来訪者が増加している。本年度は神楽奉納・公演関連がほぼコロナ禍前の状態で活動した。 ○郷土の文化財をテーマとしたネット授業でも使用可能な映像教材等学習ツールを郷土の歴史についての学習に活用してもらえるよう、小・中学校に紹介している。 課題 ○更なるSNS等インターネットの活用を検討する。 ○学校からの見学や出前授業等の要望が増え、コロナ禍以前の状況に戻ったため、対応する人員確保等の対策が必要である。			
評 価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下		
今後の対応	○神楽の奉納日程、奉納場所やアクセス情報等の問い合わせが例年多く、より詳細な内容が求められている。秋季が中心だが令和6年度も早期からの奉納情報の問い合わせが多く、情報の早めの公表も求められる。 ○副読本「求菩提山」や令和2年度に作成した郷土の歴史・文化カリキュラム等の学習資料を基に学校での活用を図る。			

15 無形民俗文化財の伝承

無形民俗の保存、伝承に向けた体制整備を行い、支援体制の確立を目指します。

【点検・評価シート 文化財の保護と活用】

		小区分	15	事務事業	1
小 区 分	無形民俗文化財の伝承				
事 業 名	保存と伝承活動の支援			担当係	文化芸術係
事業の目的	保存団体の相互連携を強め、また伝統芸能の伝承を通じて地域コミュニティの構築に寄与し、地域の伝統文化継承の一助とする。				
事 業 内 容	○豊前岩戸神楽保存会等の運営に必要な支援を行う。 ○保存団体の状況を把握し、市の助成金制度や他団体の制度を紹介しながら、伝承活動に必要な支援を行う。				
令和6年度 実施状況	○保存会では例年、各神楽講の情報を交換し、民俗芸能調査やイベント出演等に関する業務を行う。本年度は奉納がコロナ禍前の通常通りに実施された。 ○豊前神楽については令和3年度から国庫補助事業「民俗文化財伝承・活用等事業」を開始、福岡県豊前神楽保存連合会（令和6年度から築上町が事務局）を主体として各保存団体の要望を確認し、神楽面、道具類、衣装の修復・新調・購入を実施している。令和6年度は市内の2団体が毛頭・衣装の新調を実施した。				
成果・課題	成果 ○神楽や民俗芸能については開始時間や場所の問い合わせが多く、本年度も、市のホームページや広報誌に掲載し、県事業でも豊前市内外に民俗芸能の情報発信、広報PRを実施した。 ○求菩提山のお田植祭りは令和4年度以降、コロナ禍前の状態にほぼ戻って開催されている。 課題 ○豊前の伝統芸能をより多くの人に知ってもらうため、商工観光課や総合政策課と連携しながら、情報発信を実施する必要がある。 ○国重要無形民俗文化財の指定を受けた豊前神楽、国指定に加えユネスコ無形文化遺産に登録された感応楽の保存・伝承について、国の補助事業等を活用し、支援を進めていく。 ○お田植祭は、参加する児童の減少のため小学校に依頼して参加者を募っている。今後、学校再編の影響も考えられ存続のための後継者難が喫緊の課題となっている。				
評 価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下			
今後の対応	○豊前神楽、感応楽とそれ以外の民俗芸能についての支援を進める。 ○学校再編後のお田植祭の後継者育成について検討している。				

1.6 歴史遺産の活用

ガイドボランティアについて更なる充実を求め、外部からの来訪者に対して均質的なサービスの提供を図ります。

【点検・評価シート 文化財の保護と活用】

		小区分	16	事務事業	1
小 区 分	歴史遺産の活用				
事 業 名	ガイドボランティアの支援			担当係	文化芸術係
事業の目的	官民協働を推進し、地域の人材を活用して活性化を図る。				
事 業 内 容	○求菩提資料館を拠点として、史跡を紹介する豊前市史跡ガイドボランティアの会の活動を支援する。				
令和6年度 実施状況	○一般見学者や学校の校外学習等での依頼に応じた史跡ガイドの対応のほか、求菩提資料館の企画展やミニ企画展時の展示替え等のイベント作業や館内巡回を実施した。 ○「豊前市自然と文化財を守る会」と共催して求菩提山清掃登山、ヒメシヤガの育成・山への移植活動を行った。 ○スキルアップのため実地研修を含む養成講座を実施した。恒例のお田植祭の日の登山客に対する岩屋坊開放を修復工事が終わった為、再開した。 ○豊前市立埋蔵文化財センターの活用促進とメンバーのスキルアップを兼ねて、平成25年度から豊前市立埋蔵文化財センターの日祝日の管理、ガイドを豊前市史跡ガイドボランティアの会に委託している。 ○求菩提山への関心を高める目的で会の自主企画として、100円登山を実施している。				
成果・課題	成果 ○ガイド出動件数は18件で、参加人数は計233名だった（前年度出動件数計35件、参加人数計145名）。前年に比べ、件数は少ないが団体が多いため参加人数が多かった。100円登山や岩屋坊開放を再開した影響もある。勉強会や現地研修は、予定通り実施した。 課題 ○現地研修を含む養成講座は継続し、新規メンバーの定着も見られるが、メンバーの高齢化が進み、新たな人材の確保と育成が現在も急務である。 ○豊前市史跡ガイドボランティアへの依頼は参加人数が増えている。従来の文化財ガイド業務の水準を保ちつつ活動の場を広げるために、実働可能なメンバーの確保が急がれる。				
評 価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下
今後の対応	○今後も新規メンバーの募集を進める。 ○求菩提資料館・豊前市立埋蔵文化財センター・豊前市立多目的文化交流センター等、文化財展示設備を有する文化施設での現地研修等プログラムの定着を図る。				

芸術文化の振興

1.7 芸術活動

文化施設の整備を行い、文化活動の推進を図り、参加による体験を通じた芸術文化の振興を行います。

【点検・評価シート 芸術文化の振興】

		小区分	17	事務事業	1
小 区 分	芸術活動				
事 業 名	文化事業の実施、場の提供			担当係	文化芸術係
事業の目的	豊前市立多目的文化交流センターや豊前市市民会館を活用し、市民に上質な芸術文化の提供を行うことで、心豊かな市民生活形成の一助とする。				
事業内容	○豊前市立多目的文化交流センターや豊前市市民会館を文化活動の拠点とする。				
令和6年度 実施状況	○文化事業の立案・施行を効率よく実施するため、豊前市立多目的文化交流センターと豊前市市民会館の管理に指定管理者制度を導入している。 ○豊前市立多目的文化交流センターでは「第22回豊前市美術展」「colorful works 障がい者アートの世界」展覧会を開催した。 ○豊前市市民会館では自主文化事業のジャズコンサート、一般向けの映画上演会、芸術鑑賞提供事業（博多座大歌舞伎）、子ども文化事業の夏休み映画上演会・うるし工芸体験教室を実施した。また財団の補助事業で、求菩提資料館で開館50周年記念ミュージアムコンサートを開催した。				
成果・課題	成果 ○豊前市立多目的文化交流センターの年間入場者数は28,847人、年間利用件数は1,995件（前年度、年間入場者数は35,346人、年間利用件数は1,646件）。入館者数の減少と利用件数の増加理由は、前年度に比べ少人数での利用件数が増えたからである。 ○豊前市市民会館の年間利用者数は7,247人、年間利用件数は269件（前年度、年間利用者数は6,914人、年間利用件数は223件）で、前年より増加した。 ○企画の内容に応じた施設の使い分けは、定着しつつある。 課題 ○豊前市市民会館は老朽化等で将来的には建替が必要だが、現行の施設を使用する間は利用者の安全・衛生を守るための改修は必要である。				
評 価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下			
今後の対応	○施設・設備の老朽化に対する対策が必要である。				

1.8 読書活動

図書館の充実・学校図書館の支援・ボランティア活動の支援をしていきます。

【点検・評価シート 芸術文化の振興】

		小区分	18	事務事業	1
小 区 分	読書活動				
事 業 名	豊前市立図書館の充実			担当係	文化芸術係
事業の目的	より一層の豊前市立図書館サービスの充実を図る。				
事業内容	○豊前市立図書館と移動図書館車の活用を行う。				
令和6年度 実施状況	○宅本サービス・図書館講座・おはなし会・ブックスタート・映画上映会・企画展・図書館まつり等を毎年、定期的に実施している。 ○図書館サービスポイント（出張窓口）を岩屋・角田・横武・大村の市内4ヶ所の公民館に設置し、図書の貸出返却・予約・リクエスト・簡易検索・貸出券発行を行えるようにしている。				
成果・課題	成 果 ○来館者数は延べ73,377人（カウンター計数による、手動計数33,003人（前年度カウンター計数90,475人、手動計数30,938人）、貸出者数は24,133人（前年度22,138人）、貸出冊数は115,673冊（前年度123,125冊）だった。 ○移動図書館車は、幼稚園・保育園、小・中学校、福祉施設等の市内40ヶ所のステーションを月2回運行。 ○会議室の利用件数は127件だった。（前年度75件） ○来館が困難な高齢者等の自宅に本を届ける宅本サービスは、延べ利用人数69名（前年度78名）、延べ貸出冊数315冊（前年度536冊）の利用があった。 ○プロポーザルを実施して令和7年度以降の指定管理者が変更となった。				
	課 題 ○図書の貸出者数は増加したが貸出冊数は減少した。1人当りの貸出冊数が減少しているため、より「借りたい本」が増えるよう、おすすめ本の紹介や選書の工夫が必要である。 ○豊前市立図書館の有効活用や事業展開のため、読書ボランティア団体等との連携が不可欠であり、令和7年度から新たな指定管理者となるため特に今後の密な関係構築が課題である。				
評 価	C	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下			
今後の対応	○有効な広報の方法・企画の充実・連絡体制等の効率化を行う。 ○性別・年齢に偏りのない蔵書構成となるように選書を行いつつ、利用者の求める図書の傾向を把握するよう努め、幅広い利用者ニーズに応えられる図書館を目指す。				

【点検・評価シート 芸術文化の振興】

		小 区 分	18	事務事業	2
小 区 分	読書活動				
事 業 名	学校図書館との連携			担当係	文化芸術係
事業の目的	学校と豊前市立図書館を連携させることで読書推進に寄与し、資料の共有活用に努める。				
事 業 内 容	○団体貸出の推進と、学校教育活動に対する資料提供を図る。				
令和6年度 実施状況	○小・中学校に対する団体貸出や秋の読書案内（ブックトーク）等の活動を継続した。 ○例年、夏休み期間に豊前市小学生読書リーダー養成講座を豊前市立図書館で実施している。これまで教育委員会主催だったが令和6年度に初めて図書館が主体となって実施した。（市内9校の小学4～6年生10名が参加） ○うちどくりレーを自主的に継続して実施する小学校が1校あったが、令和6年度も中止した。 ○学校図書館連絡協議会及び市内40ヶ所（従来の42ヶ所のうちコロナ禍以降に2ヶ所中止）の図書館車運行ステーションの施設担当者と豊前市立図書館が、団体貸出の推進のため、年1回協議を行っている。				
成果・課題	成果 ○令和6年度は、これまで教育委員会主催だった豊前市小学生読書リーダー養成講座を図書館の事業として実施した。また、小・中学校に講師を派遣してのブックトークを実施し、子ども達への読書に対する関心を高めることができた。 課題 ○巡回で配置している学校司書との連携の充実が必要である。				
評 価	C	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下

今後の対応	○今後も学校・豊前市立図書館・読書推進ボランティアの連携を図る。また学校再編に伴い、これまで各学校の校区単位で活動してきた読書ボランティア団体の活動が変化すると予想されるので、ボランティア活動自体が弱体化しない取り組みが必要である。 ○図書館システムについても更新時期が来るのを機会に市立図書館と学校図書館とのシステム連携を目指したプロポーザルを実施する。 ○子どもの読書活動を充実させるため、ブックトーク、うちどくりレー等も継続して取り組む。 ○「第4次豊前市子ども読書推進計画」（令和4年度改定、令和5年度～令和9年度）に則り、それぞれの子どもの発達段階や個性に応じ、自主的な読書活動ができるための環境の整備を図る。
-------	--

豊前市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価に関する意見

教育委員会事務の管理及び執行状況については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき継続的に点検・評価を実施し、必要な改善や実情に応じた事務事業の見直しが行われており、充実したものになってきている。

まず「教育委員会の活動状況」については、定例会は概ね月1回開催され、教育施策に関する事項について協議・議論はできている。また、学校訪問や行事・式典等への参加に関しては、子どもや先生達に直接会え、併せて施設等も見学でき大変よいことであるため、今後も継続的な活動に期待したい。

「就学前教育」及び「学校教育」については、10事業中A評価が3事業、B評価が6事業、C評価が1事業である。

特に、「特別支援教育総合推進事業（早期からの教育相談・支援体制構築事業）」については、特別な支援を必要とする児童・生徒は増加傾向にあり、今後も迅速かつ的確な対応が求められる。「心の問題への対応」については、特に教育相談の果たす役割は今後も重要であり、更なる充実を期待する。

また、「学校再編成」事業に関しては、次世代の子どもたちに対し質の高い教育環境を整備する大変重要な事業である。令和6年度は新設する4校の校章や中学校の体操服、小学校の通学方法等を決めているが、この事業を進めるにあたっては、地域住民や保護者への理解が大切であるため、市報やHP等で広く周知に努めていただきたい。

「社会教育」については、6事業中B評価が4事業、C評価が2事業となっている。

「体験学習の推進」「地域との連携」「各種団体への支援」は、ジュニアリーダーや子ども会等の各種団体の活動について、体験学習の場を確保できた。生活様態や意識の変化によるニーズを把握し、団体の活動支援だけでなく、個人活動の支援を併せて検討し、事業実施方法を工夫するなどして体験活動等の取り組みを推進されたい。

「施設機能の整備」は、地域づくり協議会の拠点、避難所としての公民館の施設機能の維持に努められたい。

「スポーツ振興」については、5事業中A評価が1事業、B評価が3事業、C評価が1事業となっている。

「総合型地域スポーツクラブ事業」は、会員数の維持に努め、いつでもどこでもだれでも参加できるスポーツクラブとして継続できるよう、市も財政支援はもとより、認知度を高めるための広報活動等に対する支援もお願いする。「スポーツ活性化」は、青少年の健全育成やスポーツ振興を図る目的で、プロスポーツ選手による各種スポーツ教室を実施している。今後も子どもの夢を育むよう取り組まれたい。「障がい者のスポーツの振興」では、市民プールの1日無料開放「第3回豊前市民プールダイバーシティ Day」を実施した。関係者との連携を図り、継続事業となるよう期待する。

本年度のみの事業だが、第30回世界少年野球大会福岡大会事業に参加し、県外日本人及びマレーシアの子ども等を受け入れ、地元野球チームとともに野球教室や工場見学等体験活動を実施し、交流を図ることが出来た。

今後もニーズに応じた事業を創設し、継続的にスポーツの推進に努めてほしい。

「生涯学習」については、4事業中B評価が3事業、C評価が1事業となっている。

地域づくりには、多様な人材の活躍が不可欠であるため、人材を育成するためにも生涯学習を推進されたい。「豊前市生涯学習推進基本計画」に基づき、地域の力を活かし、知の循環により地域コミュニティを再構築するため、学習内容と学習機会が充実した生涯学習プログラムの構築に努めるとともに、効果的な発信による情報提供をお願いしたい。

「文化財の保護と活用」については、5事業中B評価が4事業で、C評価が1事業となっている。

「国史跡『求菩提山』の整備」は、災害復旧工事との両立となるため、事業計画の調整を図り、地元と協議・工夫しながら、着実・迅速な実施をお願いする。「保存と伝承活動の支援」は、神楽や民俗芸能の継承のための支援をするとともに、各種団体と連携した情報発信をすることにより、市内外の多くの人に豊前の伝統芸能を知ってもらうことに努められたい。

今後も国・県・関係団体との連携を密にし、補助事業等を積極的に活用することで、次世代の子どもたちへの支援を推し進めてほしい。また、国重要無形民俗文化財である「豊前神楽」やユネスコ無形文化財に登録された「感応楽」の継承にも努めていただきたい。

「芸術文化の振興」については、3事業中B評価が1事業、C評価が2事業となっている。

「文化事業の実施、場の提供」は、豊前市立多目的文化交流センターや豊前市市民会館において、芸術文化を提供することが出来た。今後も指定管理者と連携を強化し、市民の要望に沿った文化活動の実践をお願いしたい。また築60年が経過し、老朽化が進む豊前市市民会館については、豊前市公共施設等総合管理計画に従い、周辺の公共施設、類似施設との複合化、集約化について、関係部署・機関との協議・検討をお願いする。

「豊前市立図書館の充実」は、豊前市立図書館の本の貸出数は減少したものの貸出者数は増加している。企画展などの来場者が本を手にする機会となっていると推察されるため、このような機会にニーズの把握に努められたい。読書離れを防ぐため、今後もボランティア団体や指定管理者との連携を強化し、来館しやすいサービスの提供や市民のニーズに応えた選書及び蔵書等の確保をお願いする。

令和6年度の全体の評価としては、概ね適正に実施され、各係において創意工夫された取組がなされている。

教育委員会は、常に教育現場や地域住民の声を把握し、充実と改善に努められたい。

令和7年11月6日

森 重 高 岑
戸 田 章